



たんぽぽ



令和4年6月号

大田区立志茂田小学校 ことばの教室

新しい学年での生活にも少しずつ慣れて、お兄さん、お姉さんになった通級児童の様子が見られています。運動会を行った学校や、近付いている学校もあることと思います。行事を一つ終えるごとに児童の成長を感じられ、一生懸命に取り組んだ様子が目に浮かびます。経験を通して得た思いを言葉にするという貴重な機会を逃さないよう、指導にあたっていきたいと思います。



6月・7月の予定



6月	7日(火)	PM	都難言協 城南ブロック研究会
	9日(木)	PM	ことば就学支援委員会
	14日(火)	PM	都難言協 専門研究会
	18日(土)	AM	ことばの相談会
	20日(月)	PM	専門相談(長岡 恵理先生)
	24日(金)	PM	専門相談(原 恵子先生)
7月	5日(火)	PM	都難言協 城南ブロック研究会
	7日(木)	PM	ことば就学支援委員会
	9日(土)	AM	ことばの相談会
	12日(火)		1学期 通級終了
	13日(水)～15日(金)		19日(火)、20日(水) 個人面談
	19日(火)	PM	都難言協 専門研究会
	20日(水)		終業式
	27日(水) 29日(金)		ことばの相談会

※新型コロナウイルスの影響により、計画の中止、変更が見込まれます。

～ことばの相談会について～

土曜授業の日に「ことばの相談会」を行っています。

1学期：6月18日(土)、7月9日(土)です。

なお、夏の「ことばの相談会」も行います。

7月27日(水)、7月29日(金)です。

言葉のことで何か心配なことがありましたら、お電話ください。

夏の相談会についての詳細は後日お知らせいたします。

ことばの教室 03-3732-4969

【在籍学級訪問のお知らせ】

担当教諭が通級する子供たちの在籍校を訪問します。

学校生活や学習の様子などを見せていただいたり、担任の先生と情報交換をしたりして、これからの指導に役立てていきます。訪問日時につきましては、担当者から個別に連絡いたします。お手数をお掛けしますが、よろしくお願いいたします。

筑波技術大学 長南浩人先生の「聴覚障害の言語、思考、感性の発達」の講演を聞きました。
その一部を紹介します。



「9歳の壁」という言葉を聞いたことがありますか？



「9歳の壁」とは、「言葉が思考の道具になっていない」ことによるつまずきのことです。
9歳頃になると、「粘土の形を変えたら、重さはどうなるか？」という問いに、「重さは変わらない」ということが理解できるようになってきます。「ものの数量はその形が変わっても同じままだ」という「保存の概念」を習得したり、自己中心の考え方から抜け出し、友達の立場に立ったものの考え方ができるようになり、コミュニケーション能力が発達したりします。また、今までの経験や知識から見通しをもち、仮説を立てて論理的に考え、結果を予想することもできるようになります。この時、言葉で思考しているのです。これが「9歳の壁」を越えた状態といえます。

しかし、「重さは変わる」と答えた場合は、「保存の概念」が育っていない段階です。物事を反対側や裏側から考えてみたり、相手の立場に立って理解しようとしたり、自分のことを反省的に見つめたりして共通性や違いを認識して全体を捉えていく思考の特徴である「可逆操作」ができていない状態と捉えることができます。言葉で思考をすることにつまずいていて、「9歳の壁」を越えられていない状態です。

「言葉が思考の道具になっていない」と、言葉は具体物や直接的に感情を伝える手段にしかなくなっていないので、複雑な論理的思考が難しい段階と言えます。

例えば、学習の振り返りでは、学習の内容から分かったことや学んだことを論理的に考えることに苦手さをもつため、活動内容だけを書くことがあります。また、様々な感情語の獲得や他者の状況と感情を繋げることも難しく、共感することに苦手さがでできます。

例えば、「悲しい」ということは分かって、「なんとも言えない複雑な深い悲しみ」を理解したり共感したりするところまでは達していません。

そういった場合、国語の学習では、物語（作品）を理解したり浸ったりすることが難しくなります。物語を理解したり浸ったりするのに必要なのは、単語力や文法力だけではないのです。

忘れてはいけないのは、「情感」をもてるようになることです。

「情感」を育てるには、どうしたらよいのでしょうか？

日頃から大人が、「感性モデル」になって、意識をして子供に関わることです。

その方法の一つとして、例えば、子供と一緒に外を歩いていて道端に紫陽花が咲いていたとする。

大人が、「きれいな、紫陽花ね。そろそろ梅雨に入るかもね。」と柔らかな言葉や表情で空気感を伝える。

それが知識となり、考え方や感じ方を知り、文化や価値観になっていきます。言葉が思考の道具になるために大切なことです。1つの言葉からイメージが広がり、言葉のイメージが豊かになっていきます。



講演を聞いて思うこと

子供の周りにいる私たち大人が、コミュニケーションを通してその場に応じた感情語や季節に関する言葉などを聞かせたり一緒に考えたりすることの大切さを学びました。日頃から「感性モデル」になることを意識して関わることで、子供の言葉と心が豊かになり他者の気持ちが分かり「情感」を育てることができると分かりました。思考の根の部分にあたる大事なことばの教育に携われていることに、責任感と幸せな感情を再認識しました。個別で一人一人とじっくり関われること、子供と一緒に笑ったり考えたり心が通じ合える瞬間を味わえるこの仕事が楽しく、月並みな言葉ですが心から大好きだと思えます。 文責：梅田

